

| 推薦の言葉 |

わたしたちも応援します。



福井経済同友会 代表幹事  
**増田 仁視**

次代を担う人づくりは、喫緊の課題となっております。全国の先進モデルと評価されている福井大学の教職大学院がこの課題に真っ向から取り組み、人間力と創造力あふれた教師人材育成に大きく貢献することを期待しております。



福井新聞社 代表取締役社長  
**吉田 哲也**

変革の時代にあって次代を担う子どもたちの教育の充実がますます重要となっております。教員の皆様が福井大学教職大学院で研鑽を積まれ、専門的力量を高められることは大変意義深いことと考えます。郷土の発展を支える人材育成に大きく貢献されることを期待いたします。



福井県 教育委員会 教育長  
**広部 正紘**

21世紀の社会を支える子どもたちの人間力を育てるためには、家庭、地域、学校の連携による社会全体の教育力の向上が何より重要となります。そのために、福井大学の教職大学院には、高度な専門性と実践力を備えた教員の養成を期待したいと思います。



### JR福井駅から文京キャンパスへは

- えちぜん鉄道……………福井駅→福大前西福井駅下車  
(約10分)
- バス(10番のりば)……JR福井駅前→福井大学前下車  
(約10分)
- タクシー……………JR福井駅から約10分

### 福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- JRで** 大阪・京都－湖西線経由－福井  
(特急で、京都から約1時間30分、大阪から約2時間)
- 自動車**で 大阪・京都<名神>－米原JCT－<北陸>－福井・福井北・丸岡IC  
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間)

名古屋・静岡方面から

- JRで** 静岡・名古屋－米原経由－福井  
(名古屋から新幹線・特急で約1時間40分、特急で約2時間)
- 自動車**で 名古屋－<名神>－米原JCT－<北陸>－福井・福井北・丸岡IC  
(約2時間30分)

東京方面から

- 飛行機**で 東京羽田-小松空港(1時間)－福井(連絡バス1時間)
- JR**で 東京－米原経由－福井(新幹線・特急3時間30分)
- 自動車**で 東京－<東名・名神>－米原JCT－<北陸>－福井・福井北・丸岡IC(約7時間)  
※高速バスもあります。



お問い合わせ先

## 福井大学学務部入試課

〒910-8507 福井県福井市文京3-9-1  
TEL: 0776-27-9927 E-mail: g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

なお、入試情報、各専攻・専修教員の研究分野・研究業績等の詳細は  
本学ホームページ <http://www.u-fukui.ac.jp/> をご覧ください。  
平成22年5月発行

教職大学院ホームページの紹介  
<http://www.fu-edu.net>  
ニュースレター No.13～19のバックナンバー  
ご希望の方はお問合せください。

福井大学大学院教育学研究科  
教職開発専攻

# 教職大学院

Department of Professional Development of Teachers,  
Graduate School of Education, University of Fukui



学校のリーダーを育て  
学校の課題を解決し  
高い教師力を目指す教職大学院



# 全国の範となる 福井大学方式

学長 福田 優

大学教員がチームで拠点校に出向き  
現職教師の教育力を高め、学校のリー  
ダーとなる教員を養成するコースと  
若い教師の教師力アップを目指す  
コースとから成る教職大学院は「福

井大学方式」として全国の範となっ  
ています。教育の改革の必要性が強  
く求められている今日において、福井  
大学方式の教職大学院の果たすべき  
役割は極めて大きく、その成功を心か  
ら期待しています。



# 実践を重視した 学校づくりを

教育学研究科長 梅澤 章男

福井大学教職大学院にはいくつかの  
ユニークさがあります。その一つは、  
学校を拠点とした教育方法を採用し  
ている点で、専任教員が院生の所属す  
る学校を定期的に訪問することで大  
学院教育が行われています。特徴を

もう一つあげると、学校の先生方の組  
織づくりを重視している点です。子  
どもたちにとって良い学校は、そこ  
で働く教員集団がとりわけ重要と考  
えているからです。実践を通して良  
い学校づくりを参加したいと思っ  
てらっしゃる方には非常に適した大学  
院だと思えます。



# 教職大学院設置の目的

変化の激しい21世紀の社会を生きる子どもたちが、よりよく自己実現するために、学校には多くのことが求められています。家庭、地域、学校の連携で地域の教育力を高める必要があります。とりわけ学校においては、教員の専門的力量的の向上と協働研究が重要になります。そのために福井大学は、21世紀の学校教育を担う教員の専門的力量的の開発を目的として、教職大学院を開設しました。

## 5つの特徴

1. 今日的課題に焦点を当てた協働研究を支援します。
2. 大学教員がチームでバックアップします。
3. 大学教員は幼・小・中・高・特別支援の学校現場へ出向きます。
4. 学校行事等に配慮した集中的な講座を開設します。
5. 全国の教職大学院や優れた実践とつながります。

# 教育課程の概要

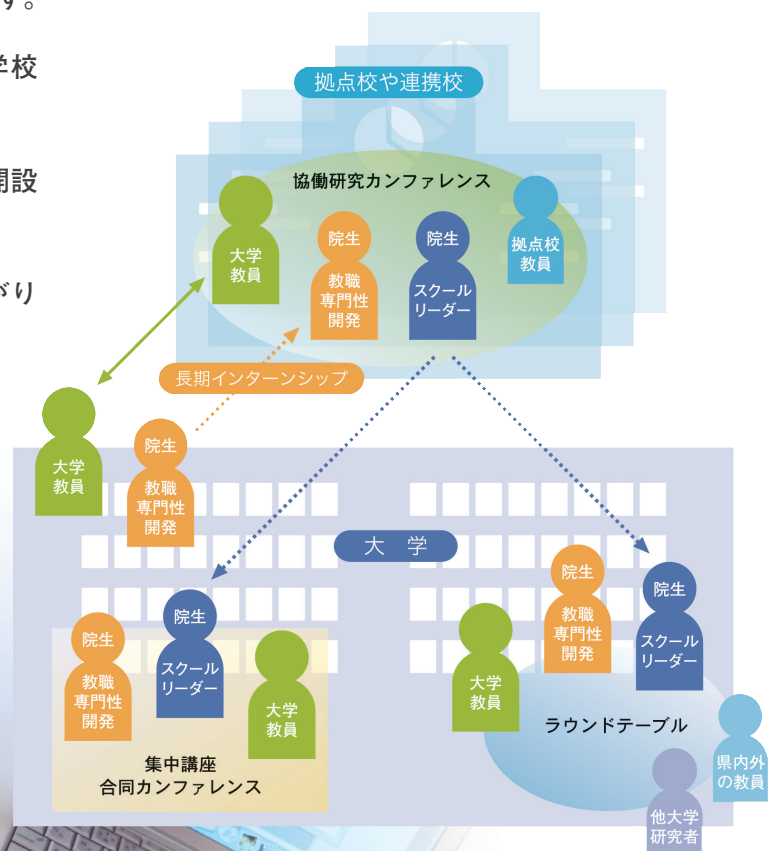
学位 …………… 教職修士（専門職）  
※新しい学位の授与

修業年限 …………… 原則として2年  
(1年を許可する場合もある)

必要修得単位 …… 学校における実習  
共通科目、コース別選択科目  
計45単位以上を取得すること

入学定員 …………… **30名**  
( 教職専門性開発コース 15名 )  
( スクールリーダー養成コース 15名 )  
現職教員 (臨時任用教員を含む)  
学部進学者

募集要項 …………… 学生募集要項は6月に発表予定



## 教育課程の特色

### 学校拠点の協働実践研究プロジェクト

学校を拠点とし、学校が抱える課題について大学と学校が協働して取り組みます。

### 教職専門性の開発・発展を支援

「実践力」「マネジメント力」「省察・研究能力」「理念と責任」の4つの軸で教育課程を構造化するとともに、世代交流のサイクルを新たに創り出していきます。

### 長期実践報告の作成

修士論文は課しませんが、長期実践報告の作成と発表を行います。

### 1年間の学校における実習

学校の1年間のサイクルに沿って1年間にわたって行います。ただし、スクールリーダー養成コースの「スクールリーダー実習Ⅰ」(7単位)については、所定の条件を満たす場合に免除が認められることがあります。

### 事例研究中心の共通科目

「教育課程の編成・実施」「教科等の実践的な指導法」「生徒指導・教育相談」「学級経営・学校経営」「学校と教師の在り方」の5領域について、学校拠点の協働研究・カンファレンス・事例研究を通して学びます。

### コース別選択科目

「カリキュラムと授業」「子どもの成長発達支援」「コミュニティとしての学校」の3つの系の中から1つを選択し、主題に沿って実践と研究を深めます。

#### 修了生の声

あわらし芦原小学校  
教諭 木内 彩乃

教職大学院での2年間の学びは、学校現場と直接つながっていることばかりでしたが、実際に働いてみると、やっぱり毎日分からないことの連続です。しかし、大学院で学んだ、子どもの成長のために今の自分ができることを積極的に探す姿勢は、今の自分の基礎であり、指針になっていると日々感じています。



## 教育課程の構成

教職専門性 開発コース	スクールリーダー 養成コース*	学年履修単位(目安)	
		1年次	2年次
学校における実習(10単位)		10単位	0単位
共通科目(20単位)		14単位	6単位
コース別選択科目(15単位)		2単位	13単位
合計(45単位)		26単位	19単位

※ 基本的に2年間を原則とするが、1年の学修によって所要の単位をすべて取得した場合の短期修了もこれを認める。

### 授業科目例

#### 共通科目例

1. カリキュラムのデザインの実践事例研究
2. 授業づくりの長期実践事例研究
3. 児童生徒の成長・発達支援の長期実践事例研究
4. 学校協働組織マネジメント
5. 教師の実践的力形成の課題と実践

#### コース別選択科目例

1. カリキュラム・授業改革マネジメント 学校拠点長期協働実践プロジェクト
2. 児童生徒の成長・発達支援 学校拠点長期協働実践プロジェクト
3. コミュニティとしての学校と教師の力形成 学校拠点長期協働実践プロジェクト

※ いずれの科目も3、4人の大学教員がチームで担当します。

#### 修了生の声

福井県立藤島高等学校  
教諭 山内 康司

授業では、「実物をなるべく見せよう」「クラス集団が学び合う場面はどこか」ということを意識するようになりました。少しずつですが、物理の授業に探究的な活動を取り入れるようになってきたところ、従来の授業と比べ、生徒の反応が変化してきました。大学院を修了しても、そこで築いた協働コミュニティは連綿とつながっていると感じています。



# 教職大学院の1年

## 教職専門性開発コース

## スクールリーダー養成コース



4 April

開講式

合同カンファレンス

5 May

6 June

ラウンドテーブル

授業実践

7 July

集中講座

拠点校での協働研究

8 August

9 September

10 October

国際フォーラム

11 November

12 December

集中講座

1 January

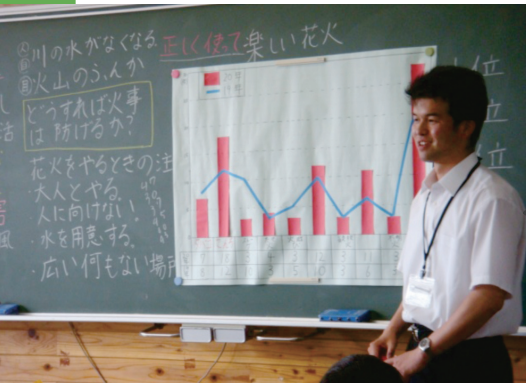
2 February

長期実践報告会

ラウンドテーブル

3 March

学位記授与式



### 在学生の声

福井市至民中学校  
教諭 高間 祐治

拠点校である至民中学校で授業研究を中心とした新しい学校づくりに取り組んでいます。40歳を過ぎてからの教職大学院での学びは新鮮で、教師の力量形成を積む中、今もなお成長している自分に感動しています。その学びを通して大学院スタッフや院生、そして全国の授業研究・学校改革に取り組む先生方と協働研究できることも大きな魅力です。自分の実践を省察し、新たな取組に生かすことで自分も学校も生き生きとしています。

### 在学生の声

教職専門性開発コース  
2年 岸本 千佳



長期インターンシップでは、教科指導、生徒指導、学級づくりについて、それぞれ、「実践-省察-実践」というサイクルを繰り返すことで学んできました。子どもの学習と成長を長期スパンでとらえる視点を持ち、それらを支える教師の支援・指導の在り方を考えながらの実践でした。「学び続ける教師」となる第一歩を踏み出すことができたと思っています。



# 教職大学院の教員紹介 (50音順)

 <p>教授 <b>石井 パークマン 麻子</b> ISHII BARKMAN Asako</p> <p>専門は、障害児教育です。スウェーデンで現職教員教育の仕事をしていましたので、必要に応じてその経験を生かしながら、福井の、日本の教師教育の充実に貢献したいと思っています。</p>	 <p>客員教授 <b>巨田 尚彦</b> OTA Takahiko</p> <p>激しく変化する現代社会において、教師に求められるものは多様化しています。一人一人の子どもたちが生き生きとした学校生活を送られるよう、学校教育の様々なテーマについて、皆さんと共に探究していきたいと思っています。</p>	 <p>准教授 <b>川上 純朗</b> KAWAKAMI Sumio</p> <p>実務家教員として教師教育を研究テーマに掲げ、実践研究を進めます。担当は、カリキュラム・授業改革です。新しい時代に生きる教師の姿を求めて協働研究していきたいと考えています。</p>	 <p>准教授 <b>岸野 麻衣</b> KISHINO Mai</p> <p>発達臨床心理学を専門にしています。幼児期から青年期にかけての子どもの発達を視野に入れた授業・学校づくりと一緒に考えて行けたらと思っています。</p>
 <p>准教授 <b>木村 優</b> KIMURA Yuu</p> <p>専門は教育方法学・教育心理学です。教職の専門性について、授業実践にもとづいた探究を進めています。特に、教師が授業中に経験し表出する感情に着目し、「情動的実践家」という新たな教職の専門家像の構築を目指しています。</p>	 <p>特命助教 <b>笹原 未来</b> SASAHARA Mikuru</p> <p>専門は特別支援教育で、主にコミュニケーションや探索活動をテーマとした実践研究を行っています。より良い教育的かかわり合いの在り方、授業づくりについて、問い続け学びを深めていきたいと考えています。</p>	 <p>特命助教 <b>杉山 晋平</b> SUGIYAMA Shimpei</p> <p>専門は社会教育です。様々な実践場面における外国人・帰国定住者の子ども・若者たちの学習プロセスを研究しています。実践と研究の往還から、皆さんと共に現場の問いを探究していきたいと思っています。</p>	 <p>客員教授 <b>玉木 洋</b> TAMAKI Yo</p> <p>価値創造とこれを支える協働組織づくりは、企業経営も学校経営も共通の課題です。「顧客本位・社員(教職員)重視・独自能力・社会との調和」の考えのもと、理論と実践の両面から学校づくりと教育人材づくりを追求してまいります。</p>
 <p>教授 <b>津田由起枝</b> TSUDA Yukie</p> <p>教職大学院での学びを学校全体の学びや成長につなぐために、先生方と協働で研究していきます。子どもたちや先生方をはじめ、学校にかかわるすべての人たちに意味のある学校づくりを目指していきましょう。</p>	 <p>教授(副学長) <b>寺岡 英男</b> TERAOKA Hideo</p> <p>世界的な教師教育改革の流れの中、新たな発想でつくられた教職大学院。学校と行政と専任スタッフ、そして院生との協働で、意味のある中身をつくっていききたいものです。</p>	 <p>非常勤講師 <b>富永 良史</b> TOMINAGA Yoshifumi</p> <p>ファシリテーターとして、学びを生み出す対話の在り方を探求しています。人と人が創造的な関係で結ばれるには、どのような考え方、態度、スキルが必要なのか、より良い対話は、何を変える力を持ち得るのか、を対話を通じて探していきたいと思っています。</p>	 <p>教授 <b>長谷川義治</b> HASEGAWA Yoshiharu</p> <p>研究分野は教師教育。教職大学院の実務家教員として、特に、「コミュニティとしての学校と教師の力量形成」を担当。協働的な学校づくりの視点を持った実践力のあるスクーラーリーダーを育成していきたい。</p>
 <p>准教授 <b>濱口 由美</b> HAMAGUTI Yumi</p> <p>「みる」ことは、出会うこと・理解すること・考えることへの扉であると考え、子どもたちが、美術の作品を創造的に「みる」ことのできる授業づくりについて研究しています。「傾聴する」ことは、「みる」ことに似ていて、学校づくりの鍵であるとも考えています。</p>	 <p>特命助教 <b>隼瀬 悠里</b> HAYASE Yuri</p> <p>専門は比較教育学です。実践家研究者として専門性を向上させることができる教員養成の在り方について研究しています。先進的な取組をしている福井大学の教職大学院と一緒に協働研究できることをうれしく思っています。</p>	 <p>客員教授 <b>松井富美恵</b> MATSUI Fumie</p> <p>学校現場で障害児教育に携わってきました。教師には子どもの指導に関するきめ細かい視点と進む方向を見て支える広い視点の両方が必要です。その上で、より良い授業づくりや学校づくりを目指して一緒に考えていきたいと思います。</p>	 <p>教授 <b>松木 健一</b> MATSUKI Ken'ichi</p> <p>21世紀の新学校づくりを福井から全国に発信しましょう。専門は教育臨床心理学です。不登校児のサポートや、発達障害児と一緒に学ぶ授業づくりを構築しましょう。</p>
 <p>非常勤講師 <b>松田 泰俊</b> MATSUDA Yasutoshi</p> <p>総合学習、生活科学学習を中心に実践研究してきました。子どもの求めや願いを大切に授業の創造を、子どもの学びの事実から求めていきましょう。</p>	 <p>教授 <b>森 透</b> MORI Toru</p> <p>専門は臨床教育学と教育実践史。教職大学院の院生と協働して大学の内外で学び、特に拠点校では実践的な教育課題を共に考え、21世紀の教育の在り方を模索し、お互いに生き生きと成長したいと思っています。</p>	 <p>教授 <b>柳澤 昌一</b> YANAGISAWA Shoichi</p> <p>新しい世代がともに学びながら、自分たち自身の共同社会のあり方を自分たち自身で考え、支え発展させる力を培う。公教育の課題を、実践を通して問い進めたいと思います。</p>	 <p>客員教授 <b>山下忠五郎</b> YAMASHITA Chugoro</p> <p>これからの変化の激しい社会を生き抜く子どもたちのためにも、今こそ学校が変わらなければなりません。学校が変わっていくための切り口を一緒に考えていきたいと思います。</p>
 <p>准教授 <b>吉村 治広</b> YOSHIMURA Haruhiro</p> <p>子どもの主体性に関わる研究を音楽教育の立場から行っています。質を対象とし、感性的な認識能力を高める芸術教科の視点を生かしながら、子ども的人間的な成長を促す学校のあり方について考えていきます。</p>	 <p>非常勤講師 <b>渡辺 本爾</b> WATANABE Motoji</p> <p>教育は、子どもの将来を決する重要な仕事です。学校・教員の果たす役割について、確かな実践と新たな研究が求められる今、教職大学院で共に学ぶことはすばらしいことだと考えています。</p>	<p>※このほかにも福井大学の多様な分野の教員が協働研究に参加します。</p>	